

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	主要地方道 三田西インター線 溝口～長坂	事業区分	地方道	事業主体	兵庫県
起終点	起点：三田市溝口 終点：三田市長坂	延長	0.9 km		
<p>事業概要</p> <p>主要地方道三田西インター線は、三田市の舞鶴若狭自動車道三田西ICとの交差点を起点として、国道176号との交差点に至る幹線道路である。このうち、一般県道黒石三田線との交差点から国道176号の区間は、現在、大きな迂回形状となっている。また、JR福知山線踏切付近は、幅員狭小で大型車の離合が困難である。このことから、バイパス整備により、安全で円滑な交通の確保を図る。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道176号と舞鶴若狭自動車道三田西ICを直結し、国道からの広域交通等の集約と高速道路へのアクセス向上を図る。 JR福知山線と立体交差するバイパス整備により、安全で円滑な交通を確保し、踏切事故防止や消防・救急救命活動を支援する。 国道176号と県道テクノパーク三田線・黒石三田線を連絡することにより、梯子状の道路ネットワークが形成され、丹波地域をはじめとする周辺地域と三田市との連携を強化し、地域の自立・活性化に寄与する。 					
全体事業費	30億円	計画交通量	11,200台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

三田西インター線は、舞鶴若狭自動車道三田西ICと国道176号のアクセス道路としての機能強化の役割を果たすことが期待されており、三田市長から早期整備の要望を受けている。

事業採択の前提条件

便益が費用を上回っている（費用便益 B/C 2.0）
平成17年3月に、今回整備区間の都市計画決定を行っており、円滑な事業執行環境が整っている。

事業評価結果

担当課：近畿地方整備局地域道路課
担当課長名：田中 貢

費用対便益	B/C	2.0	総費用：23億円 （事業費：23億円 維持管理費：0.34億円）	総便益：48億円 （走行時間短縮便益：41億円 走行費用減少便益：4.8億円 交通事故減少便益：1.4億円）	基準年 平成19年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 1.6 (交通量 -10%)	B/C= 2.4 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C= 1.9 (事業費 +10%)	B/C= 2.3 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C= 1.9 (事業期間 +2年)	B/C= 2.1 (事業期間 -2年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	特に注目すべき影響はない。		
		事故対策	◎	【死傷事故率】168件/億台km(現況) (死傷事故率比 1.7 (県内平均比98.17件/億台km)) また、本バイパスと並行する市道長坂溝口線の死傷事故率248件/億台km(現況) (県内平均の2.4倍)		
		歩行空間	○	長坂中学校、本庄小学校へ通学する児童生徒は、市道長坂溝口線を利用している。この市道は、幅員狭小で歩道がないため、車両と通学児童生徒が混在し、危険な状態にある。このため、歩道を設けたバイパス整備により、安全な通学路が確保される。		
	社会全体への影響	住民生活	○	JR福知山線を立体交差することにより、安全で円滑な交通が確保され、踏切事故も解消される。さらに、三田市消防署西分署が管轄するJR福知山線以西への移動が容易となり、迅速な消火、救急救命活動の強化が図られる。		
		地域経済	○	ICに直結することにより、高速道路へのアクセスが飛躍的に向上するとともに、新たな道路ネットワーク・流通経路が形成され、移動時間を短縮し地域の観光・産業の振興に寄与する。(ニュー三田インダストリアルパークの分譲促進(4.1ha))		
		災害	○	三田市の広域避難所である「テクノ公園」へ、JR立体交差化により、アクセスが容易になる。		
環境		—	特に注目すべき影響はない			
	地域社会	◎	周辺地域や国道176号沿線の既成市街地と県道テクノパーク三田線を骨格とする新市街地を結ぶ東西幹線道路は市道北摂中央3号線のみであることから、新たな東西幹線として、地域の交流・連携強化が図られる。			
事業実施環境	○	平成17年3月に都市計画決定済みであり、それまでの過程で度重なる地元説明を実施しており、事業に対する地元理解、三田市の協力等、円滑な事業執行環境が整っている。				

採択の理由

- 費用便益費が2.0と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
- また、当該事業箇所の現道は、県内の高速自動車国道IC24箇所のうち、唯一、主要幹線道路からのアクセスが離合困難な区間等に限定される箇所であり、特に市道においては県内の死傷事故率を約2.5倍も上回る状況である。このことから、三田西ICと国道176号を最短で結ぶ円滑なアクセス道路として本道路を整備することにより、広域ネットワークの活用、交通事故対策など当該事業の必要性効果は高いと判断できる。
- 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。